

ムズカシそうな政治を身近に!もっと分かりやすく!

# けいいちレポート No.07

令和6年1月発行

発行元 加藤圭一事務所 〒272-0036 市川市新浜1-10-12-103 Tel/090-6795-6684

HP/SNS



討議資料



市川市議会議員

# 加藤圭一

けいいち

## 12月定例会での活動報告の巻

1984年千葉市生まれ、成田市育ち。秋田大学工学資源学部機械工学科卒業後、日本郵便入社。南行徳郵政独身寮に入り、市川市民に。その後、工場勤務などを経て、現在は鉄道会社に在籍。令和5年9月に市川市議選で初当選。趣味は水泳、読書、街頭演説。

### 古い政治との決別。

政治不信が言われて久しいですが、未だに一部政治家と業界団体との癒着、利益誘導がまかり通っています。議員が、身内企業や特定業者の利益のために動く。

これでは、いつまでたっても私たちの生活は良くなりません。

**政治は、皆さんのためにあります。**

まずは、市議会で政治倫理綱領を定め、議員と業者の距離感を保ち、議員の倫理向上を目指します。旧態依然とした政治と決別するべく、市民の皆さんとタッグを組んで、活動して参ります。

加藤圭一



皆様のご意見ご聞かせて下さい

## 市政報告会

令和6年1月14日① 15:00~

[場所] 行徳公民館 第3会議室

令和6年3月10日② 15:00~

[場所] 行徳公民館 会議室

# クリーンセンター稼働停止について

Q.2023年10月18日、本市のごみ焼却施設、クリーンセンターが一時稼働停止した。予見できなかったのか。

A.予見できなかった。

Q.同施設は老朽化のため建替工事が予定されていたが、延期した。その経緯と今回の稼働停止には因果関係があるのではないか。

A.2021年東京五輪開催による、建設費高騰が予想されたためである。

施設の老朽化は進んでいるが、**直接の原因は不明で、今後外部有識者の調査が行われる。**

Q.ごみの減量について、本市の考え

A.市川市一般廃棄物処理計画を策定し、令和12年度を目標年次とし、1人1日あたりの排出量720グラム以下、資源化率30%以上などの数値目標を掲げる。また、家庭で出る生ごみの減量のため「コンポスト支援」を実施している。

## ここで、加藤圭一が加えます！

平成30年、クリーンセンターの建て替え工事延期を決定したのは、当時の村越祐民市長である。東京五輪開催に伴う建設費高騰を理由にしているが、その後の令和3年以降、円安や原油高により、建設資材価格や建設業界の労務費はむしろ上昇している。延期したことで、逆に建設コストが増大するのではないかと、**クリーンセンター建て替え工事を延期した村越祐民前市長の判断は、失策である。**



議会の様子は  
こちら！



## ケアマネージャーと市の連携強化

Q.ケアマネージャーが利用者の介護度を確認出来ないことがあり、業務遂行に困ることがある、との声を聞いた。

A.介護度は個人情報に通じるため、市として開示はできないが、介護保険証の再交付の申請をすることが可能である。

Q.ケアマネージャーが作成したケアプランの内容・方向性を決定する場である、サービス担当者会議の目的と多職種協働の推進のために市が行っていることは何か。

A.会議の目的は、利用者の支援に関わる関係者の「情報共有」、「利用者や家族の意向確認」のためである。ケアマネージャーのほか、デイサービスやホームヘルパーなどの介護事業所の担当者、医師、訪問看護師、リハビリ職などの医療関係者が集まる。

ただ、ケアマネージャーは福祉分野の専門職が多く、医療職との連携には課題がある。本市では、リハビリ職や薬剤師との合同研修を開催している。



## 救急搬送体制について

Q.本市の救急出動件数と救急事故種別の内訳

A.令和4年一年間の救急出動件数は、27,114件。内訳は、急病、一般負傷、交通事故の順。

Q.本市にドクターカーを導入する考えについて

A.順天堂大学医学部附属浦安病院所属のラピッドカーが市内で運用されている。ドクターカーとは違い、患者を搬送する機能はないが、救急自動車として登録されており、医師や看護師を乗せて救急現場に出動できる。令和5年に入り、ラピッドカーの出動件数は11月30日現在で275件。概ね1日1件の出動がある。

Q.ドクターカーの位置づけは

A.ラピッドカー導入により、医師が救急現場で早期に医療行為を開始することができ、救急隊と連携がとれている。



順天堂大学医学部附属浦安病院HPより

## 村越前市長の負の遺産

テスラ、シャワー、高級家具、私設秘書逮捕など、問題だらけの村越祐民前市長。

2022年4月の市長選挙で落選したので良かったと思われる市民の方も多いと思いますが、「負の遺産」はまだ残っています。ガラス張りのシャワー室は、導入から撤去まで、500万円もの税金が使われました。市内の塩浜学園の校舎解体工事で、入札予定価格を業者に漏らした、村越前市長の私設秘書が逮捕されたこともありました。

業者との癒着は明らかです。

上記で取り上げた、クリーンセンター建て替え工事延期判断も、建設コスト高騰で逆にコスト増に繋がると考えます。政策上の判断ミスで、税金が無駄に使われてしまいます。

ほかにも、業者との癒着などがあれば、しっかり追及して参ります。



内閣府地方創生推進室HPより